

# 我が家の墓事情、 墓じまいと改葬の経験

札幌市医師会  
札幌循環器病院

若林 央

先の大戦は我が家にも大きな戦禍をもたらした。昭和20年は私の父にとって辛苦の年となった。その年、父は35歳で近衛師団の大尉（軍医）であった。家族は私の祖父母、両親、5歳の私と3歳の弟の6人であり、小田急線の新宿から三つ目の駅の代々木八幡に家があった。

終戦前後の混乱の中で、父は4月に私の母を32歳で腸チフスで亡くし、さらに8月には祖母を、10月には祖父を続けて亡くしている。私はこの三人は戦争の犠牲者と思っている。父は長男であったが墓の手当ができずに三人の遺骨は私の祖父の生家である静岡県富士宮市の墓に納骨させてもらった。この祖父の生家は江戸時代から続く酒家であるが、祖父は長男であったが家を継がずに東京に出たのである。5歳の私は母のことを含めてその当時の記憶がほとんどなく、前後関係は定かではないが、その頃に我が家は強制疎開もさせられている。空襲が激しくなり、鉄道沿線にある家は疎開を強いられたのである。当時の父の苦労は察するに余りある。

父は疎開先の埼玉県加須市で開業をしたが、私の二番目の母となる女医さんと再婚し妹を儲けた。しかしその母も不幸にも昭和30年に病死した。父はこの母も富士宮の墓に葬った。

父はその後、医師会長になるなど地元貢献したが、昭和50年に65歳で胃癌で亡くなった。生前に父は隣の街の霊園に立派な墓を手当していたので、父の遺骨はその墓に納骨された。

私は昭和36年に札幌医大に入学して医師になっており、埼玉に帰ることを考え始めていた時期であった。しかし父の死後、私は札幌での生活を選択し、10数年前に近郊の霊園に「若林家の墓」を建てた。私は慣習上その家の墓は長男が受け継ぎ管理するものと思っていたので、埼玉と静岡の墓のことが心の負担になっていた。京都で医師をしている弟と大津市で生活している妹に相談したところ、彼らも年とともに墓参りが遠のいていること、自分たちの子供や孫の時代になると墓参りはできなくなる恐れがあることから、私が一括して管理すると安心だということになった。

そこで父の墓じまいから実行することにした。まず、札幌に若林家の墓が存在することを証明してもらい、次に埼玉の父の墓の管理者の住職さんに墓じまいの意向を伝えて了解を得た。そして後日に埼玉の霊園に出向いて納骨証明書もらい、その足で霊

園のある役場に行き、改葬許可書を申請し、必要事項を記入して提出した。改葬許可書は自宅に郵送してもらった。

墓じまいの当日は霊園のお寺で法要をしたあと、石材屋さんに納骨室から父の骨壺を取り出してもらい、運べるようにきれいに梱包した。石材屋さんにはさらに墓石の解体と撤去を依頼した。骨壺は他の乗客の目を気にしながら家内と二人でJRやモノレールで運んだが、意外に重くて大変であった。羽田では係員から飛行機の中では足元に置けば良いと説明を受け、なんとか自宅まで無事に運べた。後日三人の子供や孫たちと共に父の遺骨を札幌の若林家の墓に納骨することができた。

父は二番目の母の死後、自分の従妹と再々婚をしていたが、この私の三番目の母は父の納骨の2ヵ月後に96歳で他界した。当然この母の遺骨も若林家の墓に納骨した。

そうなるも他の親族の遺骨も早く改葬したいという思いが強くなった。まず、富士宮の酒家の当主となっている私の又いとこに、改葬の希望を伝え協力を仰いだ。富士宮の寺の住職さんにもその意思を伝えたとこ、私の家系は現在の酒家の当主からすると傍流になるので、改葬することは良いことだと言われた。現在富士宮市には子供の頃から良く遊んでいた五人の又いとこたちが居るが、彼ら彼女らはありがたいことに父の墓じまいの時のような手続や手配、さらには骨壺の取り出しなどを全てやってくれた。一番の問題は70年以上経過しているために骨壺を選び出せるのかであった。又いとこたちは住職さんと石材屋さんの協力を得て新しいものから順番に確認しながら取り出し、さらに骨壺の蓋の裏の僅かに残る名前を見て選別してくれたという。とにかく感謝の一言しかない。

後日、弟と妹と祖父母が同じである従弟と富士宮に行き、法要を営み、又いとこたちとお礼の宴を催して親睦を図った。

骨壺の運搬も問題であったが、これは住職さんから今の時代はゆうパックでの運送という方法があり、法的にも道義的にも問題はないと教えられていた。すでに又いとこたちがゆうパック用にしっかり梱包してくれていたもので、そのまま郵便局に持ち込んだところ、極めて事務的に一般の荷物と同じ料金で受け付けてくれた。

これで富士宮の墓の改葬も終り、我が家の墓には故人となった肉親が全員眠ることになった。永年の懸案であった肉親の遺骨と墓の問題が解決できほっとしたが、私にとって実母の遺骨を自分の墓に納められたことが一番の安らぎとなっている。我が家の墓は永代供養をしているが、幸いなことに私の後には長男とその息子が居るのでしばらくは安泰と思っている。